

食生活と学校給食に関する調査報告【概要】

1 目的、概要

本調査は、食の指導の充実・推進等を図るため、平成 25 年度より 3 年ごとに継続的に実施し、児童生徒及び保護者における普段の食生活の実態や、学校給食への理解度、評価について調査・分析を行った。

また、前回平成 28 年度の調査結果と比較して、これまでの取り組みの効果等を分析することで、今後、本市が取り組むべき食育施策に資することを目的として実施した。

2 実施方法について

- (1) 委託先：鳥取短期大学
- (2) 調査対象者：①市立小学校(41校)、義務教育学校(3校)の児童5年生(1,607名)とその保護者
②市立中学校(14校)の生徒2年生、義務教育学校(3校)8年生の(1,548名)とその保護者
- (3) 調査内容：アンケート調査(7月実施)をもとに分析を実施
 - ①普段の食生活、食育の認知・実施状況
 - ②学校給食に対する意識・関心・役割・理解度
 - ③地産地消について

朝食の摂取状況

過去とのデータ比較 (%)		毎日食べる	週4~5食べる	週2~3食べる	ほとんど食べない	無回答
小学校5年生	2019年	84.9%	6.5%	2.2%	2.1%	4.3%
	2016年	89.4%	6.7%	1.0%	1.2%	1.7%
	2013年	90.3%	5.7%	1.6%	1.4%	1.0%
中学校2年生	2019年	78.1%	6.8%	2.9%	2.4%	9.8%
	2016年	84.5%	7.4%	2.8%	1.9%	3.4%
	2013年	83.4%	7.3%	2.9%	2.7%	3.7%
小学校保護者	2019年	84.4%	3.3%	2.6%	5.7%	4.1%
中学校保護者	2019年	84.1%	4.1%	3.1%	4.7%	4.0%
保護者合計	2019年	84.2%	3.7%	2.8%	5.2%	4.0%
	2016年	85.8%	4.1%	3.1%	5.8%	1.2%
	2013年	87.1%	3.5%	2.5%	5.0%	2.0%

3 調査結果

- ◆回答率…小学生 95.0%・保護者 82.5% (義務教:前期課程含む)
中学生 95.0%・保護者 80.6% (義務教:後期課程含む)

朝食の摂取状況

「毎日食べる」割合は、小学生 84.9%、中学生 78.1%、保護者 84.2%で、小学生に比べ中学生の摂取率が低かった。また、年次比較ではいずれも減少傾向にある。

食事の共食状況等

朝食の共食状況は小学生に比べ中学生の方が一人で食べる割合が高くなる傾向にあり、小・中学生ともに「一人で食べる」、「子どもだけで食べる」がやや増加。夕食は、「家族そろって食べる」が 63%、「大人の家族と食べる」と合わせると 86%が共食をしている。また、保護者が食生活で気をつけていることとして「家族と食卓を囲むこと」「栄養バランスのとれた食事」などが多かった。

学校給食に関する意識

小学生の方が、中学生よりも学校給食を好んでいるが、「好き」「どちらかといえば好き」の割合は小学生 65.7%、中学生 56.4%と共に年次比較では年々減少している。保護者は学校給食の良い点として「栄養バランスが配慮」「家では作らないものが食べられる」などが増加している。

給食に関する意識

過去データとの比較 (%)		残さず食べる	ときどき残す	いつも残す	無回答
小学校5年生	2019年	44.0%	36.7%	8.0%	11.3%
	2016年	57.0%	33.7%	5.1%	4.2%
	2013年	53.7%	37.0%	6.5%	2.7%
中学校2年生	2019年	48.6%	30.0%	8.8%	12.6%
	2016年	59.9%	30.8%	6.0%	3.4%
	2013年	46.0%	38.2%	12.6%	3.2%

残食の状況

「残さず食べる」割合は、小学生 44.0%、中学生 48.6%と年次比較では減少している。残食の主な理由は、過去の調査と同様で「きれいなものがある」「量が多すぎる」「時間が足りない」である。

地産地消について

地産地消に取り組んでいることを、小学生 49.6%、中学生 66.1%、保護者 85.8%が知っており、前回に比べ増加した。

4 まとめと今後の取り組み

朝食を「毎日食べる」児童生徒が減ってきており、食べない理由は「食べる時間がない」「お腹がすかない」である。保護者の結果も同様なため、生活習慣を注視する必要がある。また、小学生では 53.8%が共食状況であったが、中学生になると 46.2%に減っており、特に中学生はひとりで食べる割合が増加傾向にある。また「食事が楽しいと感じない」児童生徒もわずかながら増えている。この調査の要因分析から、家庭での食にかかわる行動が、給食の好き嫌いや食育等の認識への影響があることが示唆された。この継続した調査結果により、児童生徒の望ましい食習慣の形成には、学校と家庭及び地域連携の強化が必要であり、学校における食育を推進するためには、引き続き、栄養教諭、学校栄養職員を中心に、学校教育活動全体で食に関する指導の充実を図っていく。併せて、本調査結果を「学校給食センター整備計画(仮称)」へ活用するとともに今後の学校給食運営を充実させる。